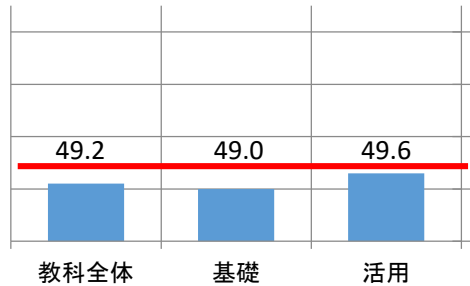
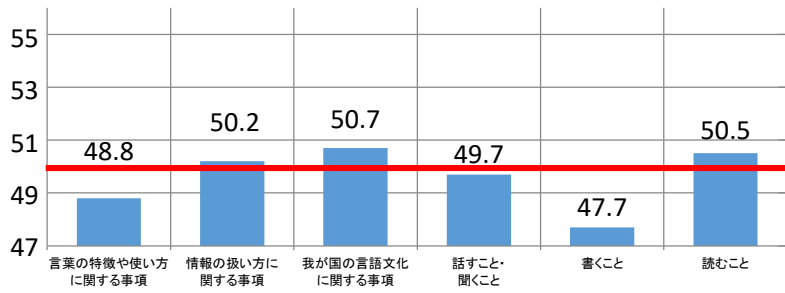


調査結果

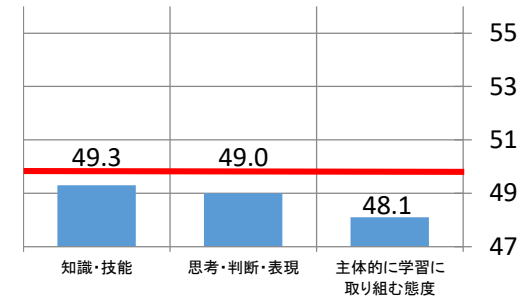
偏差値



領域別偏差値



観点別偏差値



分析Ⅰ

書くこと 本調査問題7

内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことに課題が見られる。

◆考察◆

書く学習では、書く内容の中心を明確にし、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書かせることが大切である。指導に当たっては、同じような材料を比較して、どれが自分の書きたい事柄に合っているかを考えさせたり、読み手が理解しやすいように、事柄ごとに材料を分類させたりすることが必要である。

授業アイデア例

単元名 世界にほこる和紙 伝統工芸のよさを伝えよう(光村図書4年)

今回の単元で、特に付けたい力は、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること【思考力、判断力、表現力等】B(1)ウ です。

- 第一次
●単元の見直しをもつ。
(伝統工芸に関わる本を並行読書しておくことを呼びかける)
- 第二次(世界にほこる和紙)
●文章全体の組み立てを捉える。
(初め・中・終わり)
●筆者の考えとその理由や例を整理する。
●要旨を考え、200字以内の文章に要約する。
●伝統工芸に関わる本の中から一冊選び、よさを中心に要約する。
- 第三次(伝統工芸のよさを伝えよう)
●調べたい伝統工芸を決める。
●詳しく調べて整理する。
●組み立てと整理の仕方を考え、下書きをする。... (本時)
●消書き、学習を振り返る。

調べて分かったことを整理するには、クラゲチャートを活用することが効果的です。さらに、調べたものの中から述べたいことを絞り、自分の考えと理由や事例の関係性に気を付けて書くことを大切にしましょう。

下書きする際には、「なぜなら～」、「その理由は～」「～ためである」など理由を示す表現等を用いることで、読み手が理解しやすい文章にすることができます。

分析Ⅱ

調べて分かったことを発表する 本調査問題6(2)

調べて分かったことについて、情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話すことに課題が見られる。

◆考察◆

調べて分かったことを発表する学習では、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるよう話の構成を考えることが大切である。指導に当たっては、具体的な相手や目的を意識して相手が分かるように丁寧に理由付けしたり、筋道立てた構成にしたりすることが必要である。

授業アイデア例

単元名 調べて話そう、生活調査隊(光村図書4年)

今回の単元で、特に付けたい力は、相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること【思考力、判断力、表現力等】A(1)イ です。

一目で伝わるのは、棒グラフだね。

質問内容・結果・考察を一度整理し、「まず」「次に」「最後に」等の言葉を用いると、筋道立てた構成にすることができます。また、理由や事例を挙げる際に表やグラフを見せながら話す相手により分かりやすく伝わります。